



教育目標

「自学、信愛、努力を基本とし、人間らしい生き方を求める生徒を育てる」

# NANBU



学校だより第11号

水見市立南部中学校

令和3年2月19日

## がんばれ、南中生！

校長 扇谷 孝代

朝、学校の玄関で生徒と挨拶を交わしながら、ふと思いました。1年生は2年生に、2年生は3年生に、そして3年生はもうすぐこの学校から巣立っていくんだな・・・と。当たり前のことですが、本年度は様々な不測の事態に見舞われていることもあり、この当たり前が殊の外、うれしく感じられます。

令和2年度は昨年度末からの臨時休校が明け、予定どおり始業式が実施されました。3月がすっぱり抜けていましたから、新3年生も2年生もきちんとした締めくくりができないまま迎えた新学期でしたが、生徒たちの表情には、それぞれ進級した喜びと緊張感がにじみ出ていました。そして、入学式。在校生はアリーナに入ることができず、新入生はクラスごとに2回に分けての式となりました。新入生の凜とした表情も印象的でしたが、より鮮烈に記憶に残ったのは、式の後片付けをする新3年生の喜々とした活動ぶりでした。「いよいよ自分たちの出番だ」という最高学年としての意欲が表れているように感じられました。



しかし、翌日から再度の長期臨時休校が始まってしまいました。

始業式・入学式は終えたものの、実際の学校生活は全く始まらぬまま、2か月近くが過ぎていきました。その間、各種大会・コンクール等の中止を伝える報道が相次ぎました。この状況が続くようなら学習は？学校行事は？部活動は？。先行きが全く見通せず、多くのことが宙ぶらりんの状態になりました。特に3年生は、部活動等の集大成の場が失われて落胆したでしょうし、進路選択に関しても大きな不安を抱えていたことと思います。

6月、ようやく学校は再開されたものの、これまでとは一変した学校生活となりました。授業時数確保のため、夏休みは大幅に短縮、学校行事の多くも中止、または規模縮小となりました。目標のなくなった部活動を今更続ける必要があるのかという3年生の声があったのも事実です。

しかし、そんな状況でも、生徒は一人一人成長を続けていました。

部活動において、3年生は、交流大会に出場することや後輩の指導に当たること等を自らの新たな目標とし、最後まで1、2年生に範を示し続けました。2年生はその後を引き継ぎ、立派にそれぞれの部を運営しています。6月中旬にようやく入部した1年生の中には、既に新人大会等で活躍している生徒もいます。

9月、運動会では、できることが限られている中で、生徒は斬新な発想力と短期集中力を発揮し、例年とは全く違う形のパフォーマンスを披露しました。10月、学習発表会では、マスク着用、



間隔を広くとった隊形というリスクを克服し、瑞々しい感性を感じさせる合唱を披露しました。うれしかったことは、新しいことを柔軟に取り入れながらも、南中生としての伝統と誇りを守りたいという生徒のプライドが感じられたことです。

そして今、3年生はいよいよ迫った進路決定に向けて、1、2年生は学年のまとめに向けて、学校中で粛々とした学びが行われています。



本年度を振り返ると、例年どおりのことができなかつたという点では、残念に思うことが多々あるのも事実です。しかし、「予測が困難と言われているこれからの社会を生き抜く子供を育てること」が新学習指導要領等に謳われている教育の目的であるなら、生徒は未曾有の困難を通して、たくましく生き抜く術を学んでいると捉えることもできます。

朝、元気に、あるいは控えめに「おはようございます。」と挨拶する生徒を見ながら、心の中で一人一人に「がんばれ、南中生！」と声援をおくっている今日この頃です。

# 令和2年度アクションプラン年度末報告

## AP1 主体的に学習を進め、互いの考えを深め合う生徒の育成 成果と課題

- ・振り返る場を意図的に設定することや用語等の提示を通して、生徒は教材の魅力を自分事として捉えるだけでなく、知識・技能の定着も図ることができる。
- ・対話と振り返りは二分したのではなく、深い学びを実現するための両輪を担うものである。学習課題の設定も、学びの意識の連続性を重視し、毎時間単位ではなく柔軟に行う必要がある。

生徒意識調査（2学期）		
意識調査項目		達成度
1	課題の解決に向けて、積極的に取り組むことができた。	88.9%
2	授業には、自分の思いや考えをもって参加できた。	84.0%
3	授業では自分の思いや考えを伝えることができた。	68.9%
4	資料や文章、話の組立て等を工夫して発表することができた。	69.1%
5	友達の思いや考えをしっかりと聞くことができた。	95.4%
6	友達の考えを踏まえて話し合うことができた。	89.5%
7	全体で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができた。	82.4%
8	授業において、学習課題を振り返ることができた。	78.4%
9	家庭学習では、1日平均1年生は70分、2年生は90分、3年生は120分以上学習できた。	72.7%

## AP2 思いやりの心を大切に、よりよい集団を目指して行動する生徒の育成 成果と課題

- ・爽やかな挨拶や、相手のことを考えた言動を意識しながら学校生活を送っていると思われる。
- ・項目3については、特に3年生で前回よりも数値の向上が見られた。規模が小さいながらも実施した運動会や学習発表会等において、自分の役割を果たしたことが、調査結果に表れたと考えられる。
- ・次年度も様々な制限があると考えられるが、南部中学校の良き伝統が受け継がれていくよう、上級生の姿を下の学年の生徒が目にする機会がより多くあることを願う。

生徒意識調査（2学期）		
意識調査項目		達成度
1	相手の気持ちを考えた言葉や行動を心がけた。	92.9%
2	自分から挨拶できた。	96.8%
3	よりよい学校にするために、自分にできることを考えながら委員会活動や係活動、日々の当番活動に取り組むことができた。	90.2%

## AP3 健康な生活の実現に向けて、自己管理できる生徒の育成 成果と課題

- ・12月に調査した「とやまゲンキッズ作戦」では、6月調査に比べ、「3時間より多くメディアを利用する」と答えた生徒が1、2年生で減少した。また、全学年において、「10時半前に就寝する」生徒が増加した。
- ・「南中ネットルール」や感染症対策への取組、健康教室、ネット教室等を通して、今後も自己管理することの大切さについて、継続して指導していきたい。

生徒意識調査（2学期）		
意識調査項目		達成度
1	ゼロメディア運動期間中に、メディア利用時間を減らし、家庭学習時間を増やした。	83.1%
2	運動期間中に、睡眠時間をしっかりと確保した。	77.8%
3	感染症について正しく理解し、主体的に対策に取り組んだ。	95.9%
4	自分の健康課題を把握し、生活習慣を改善しようと心がけた。	92.3%

## 学校評議員の皆様の意見より（抜粋）

- ・子供の成長は5年、10年という長い期間、多くの人に関わって成されるものである。学校はすぐ現れる成果を期待する傾向があるが、これからの時代は考え方の転換も必要なのではないか。
- ・ネットは便利なものではあるが、正しい使い方をしないと大いなる脅威にもなりかねない。大人は「怖いもの」を知っているから自制できる。子供にも本当の「怖さ」を誰かが教え込む必要がある。
- ・健康教室、ネット教室等の役立つ話は、聞いた当初は覚えているが、時間がたつと忘れてしまう。定着のためには、インプットを様々な角度から継続的に行う必要がある。

なお、詳細につきましては、南部中学校ホームページに掲載しますのでご覧ください。

## 学校からのお知らせ ○次年度の学校行事等の実施時期について

現在学校では、令和3年度の年間計画を作成中ですが、新型コロナウイルスによる感染拡大が今なお収まっていない状況であることから、学校行事等について、例年とは違う時期での実施も検討しなければならないと考えております。

詳細につきましては決まり次第、改めてご報告させていただきます。

## 特集 私たちにも中学時代はありました その2

南部中学校の教員に、中学校時代の思い出を聞きました。

○ 変な言い方ですが、先生方と仲良しでした。友達と一緒に職員室に入り浸って楽しく雑談したこともありました。あの楽しいひとときが教職を目指す原点になっています。とは言え、先生方からすれば、「いじらしい生徒」だったことでしょうね。

○ 3年生の夏休み、友達と遊んでいて、自転車で交差点に飛び出し、右から来た軽乗用車にはねられました。20～30mくらい飛ばされたらしいですが、骨折もなく、奇跡的に擦過傷や切り傷だけでした。しかし、冷房が効き過ぎている病院で手当をしてもらったので、風邪をひいて入院してしまい、その治療が大変でした。

○ 吹奏楽部一泊二日の合宿が学校でありました。練習のことはもちろんですが、夜にバーベキューをしたり、部員で礼法室に布団を敷いて寝たりしたことが思い出に残っています。

